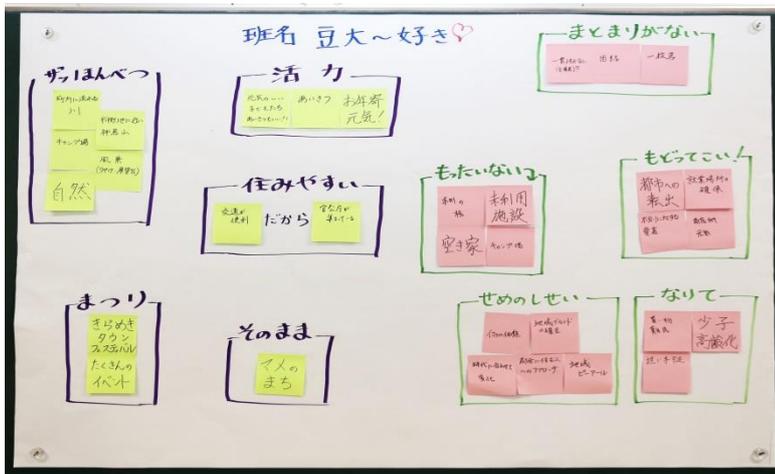


地域づくりセミナー

「人口が減っても元気なまちでありつづけるために」

令和元年 10月2日 18:00~21:00
本別町体育館 2階中競技室

『豆大～好き♡』 班の討議結果 (発表者: 山岡 裕幸)



メンバー
寺島 康博
井出 直美
山岡 裕幸
宮内 一樹



【課題について】

- ・ 団結力が無いのではないか
- ・ 一枚岩になっている
- ・ 一貫性が無い (まとまりが無い)

このあたりがまだ町民一体となっていないんじゃないか。だからまとまればもっともって何か出来るんじゃないかという結論になった。(写真1)

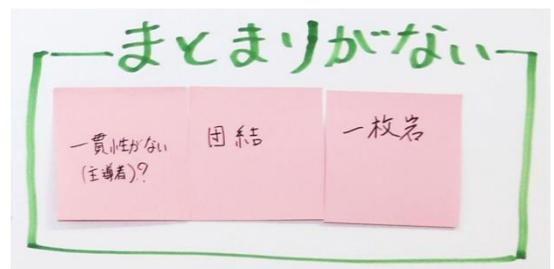


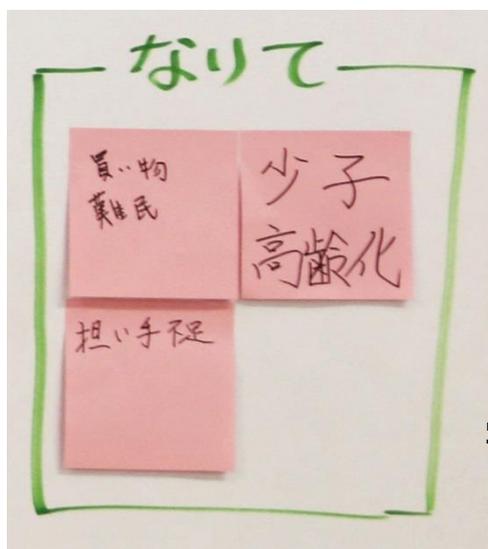
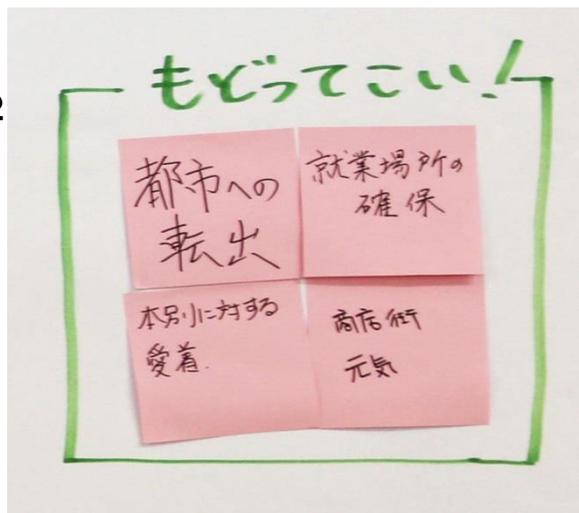
写真1

- ・働く場所がない
- ・商店街に元気がない
- ・若い人が戻る場所がない

↓

だから都市への転出が進んでいく
それに対して、教育のほうでもっと本別に対し
て愛着を持ってもらうことで戻ってきてもら
うことが出来るんじゃないか？（写真2）

写真2



- ・町内でも買い物難民が増えてきている
- ・若い人、いろんな職業に対して担い手不足になる

↓

少子高齢化が進んでいる
官公庁の職員もそうだが、成り手がいないという課題
があるのではないか。（写真3）

写真3

- ・本別の使っていない施設・空き家がたくさんある
- ・本別の中心街にある道の駅、（本別の）核となる施設をもっともっといい活用出来るのではないか
- ・キャンプ場も無料でキャンプが出来るが、これも料金を取ったら収入が入るんじゃないかと（写真4）

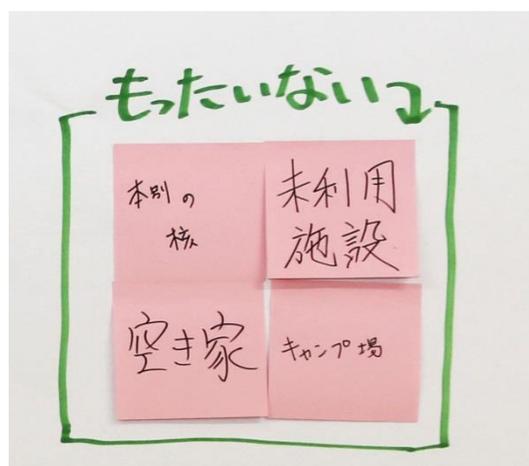


写真4

【魅力について】

- ・はしゃぐ
- ・子ども達も挨拶がしっかり出来る
- ・高齢化という話も出たが、お年寄りがすごいお話が大好きな人たちで、元気いっぱい



まだまだ町民の人たちで盛り上げる力はあるのではないか。(写真5)

写真5

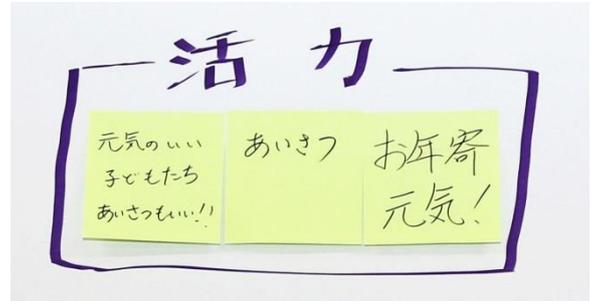
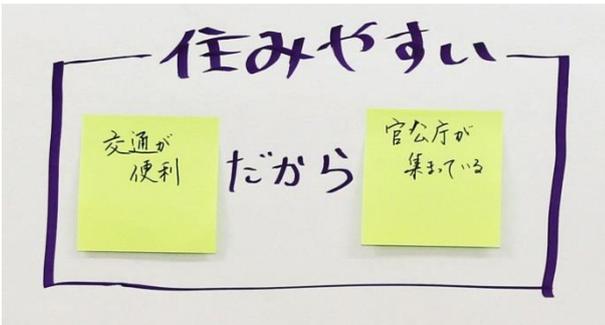


写真6



- ・交通が便利
本別には高速の入口もある。
- ↓
- だから官公庁が集まっている

- ・十勝管内でも保健所とか警察署とかが密集している町っていうのはそうそうない。



だから住みやすい町 (写真6)

【そのままにしておくところ】

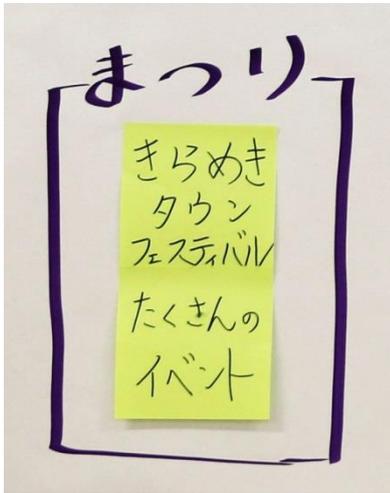
「マメのまちほんべつ」(写真7)

写真7



ワークショップのようす

【まつりについて】



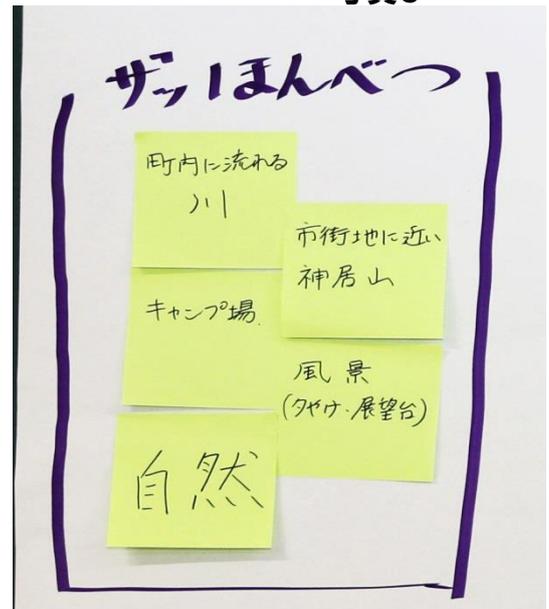
- ・総合計画策定の中高生アンケートで、圧倒的にきらめきタウンフェスティバルが好きだと答えている中高生がたくさんいた
- ・きらめきの他にもたくさんのイベントがある
- ・祭りがたくさんある町、本別（写真8）

写真8

【ザッほんべつについて】

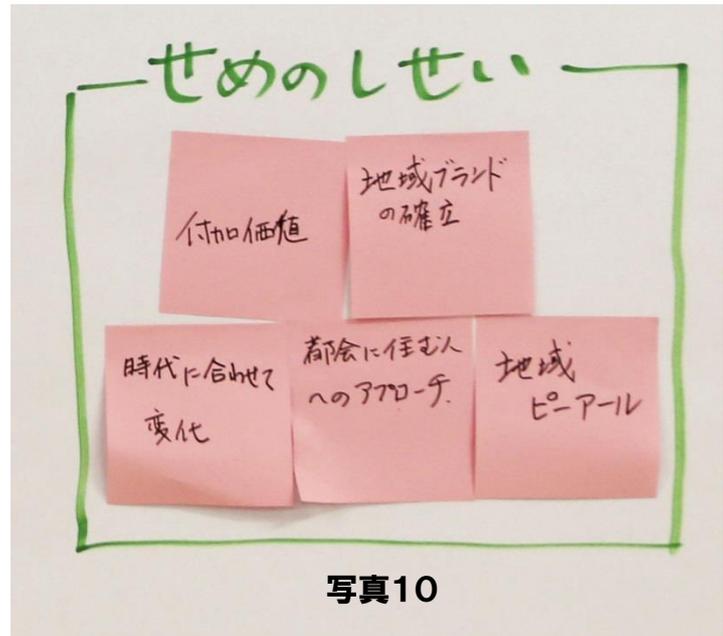
- ・市街地に近い神居山
- ・神居山から見える風景
- ・町内に流れる利別川
- ・自然がいっぱいなところ
- ・「もったいない」の課題としても挙げられたが、魅力あるキャンプ場をもっと活かせれば、もっと良いキャンプ場になる（写真9）

写真9



【せめのしせいについて】

- ・「豆の町ほんべつ」であるが、ブランドとして確立していない
 - ・それを付加価値として高めていない
 - ・地域や本別のことをPRすることが少ない
 - ・海外に売りに出すのも良い案だが、状況に合わせて対応出来ていない
- ↓
- 都会に住む人へのアプローチが少ないんじゃないか？（写真10）



この発表に対しての質問

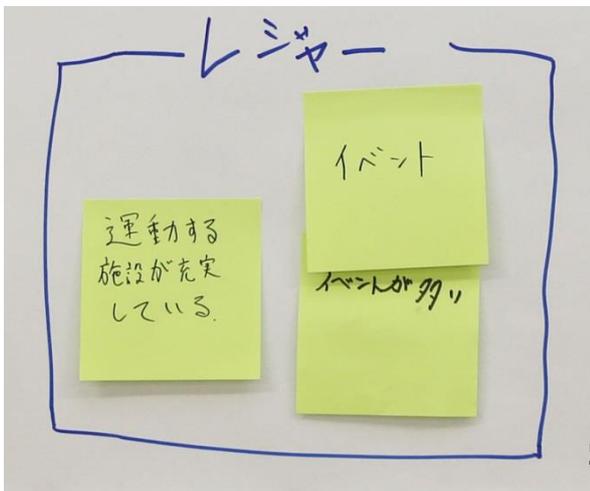
キャンプ場で使用料金を取るにはどれくらいの金額を取るつもりなのか？

山岡：具体的な話はしてないが、お金を取って収入が増える点と、無料だし、収入がないために、支出・管理費にお金をかけてばかりだったら、民間に委託してしまえばいいという事実。発想が同じだが、やり方が違うというかんじになるかと思う。

料金を徴収するということになると、今の施設の利用が増えるということでもいいか？

山岡：そういうことで。もっと利用できるのではないかということ。

【本別の良いところについて】



- ・イベントが結構あるところ
- ・きらめきタウンフェスティバル
→東十勝で一番の見せ場を作る。他の町の人たちも本別にわざわざ来て、収益をあげている。
(写真12)

写真12

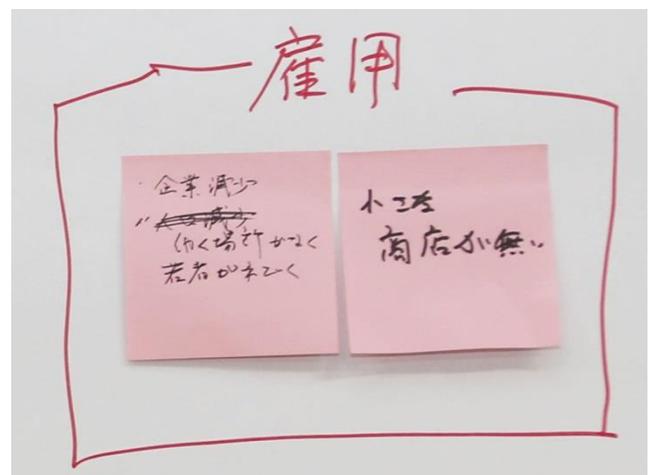
【本別の町の中で一番気が付いたところ】

- ・運動する施設が充実している
いわゆる芝生の上で運動が出来る、こんないい場所がある町村は無いということだった。

【直してほしいところについて】

- ・雇用の場が無い
→以前、就職を間近に控えた子どもを持った母親と話をしたときに、「なぜ本別に子どもを残さないのか？」と聞いたら、「だって、本別には働く場所が無いから」と返ってきた。「結果的に帯広や札幌へ出さないと、子どもが暮らしていける場所が無い」ということを言われた。これをどう克服していくのが問題
(写真13)

写真13



・企業誘致なんてとても無理な問題（お金が掛かる）。

→講師(大山氏)が言われたように、お金が無いということは言うてはいけないと言うが、現実お金が無い。

↓

どうしようか?という事で困っている。



【人口について】

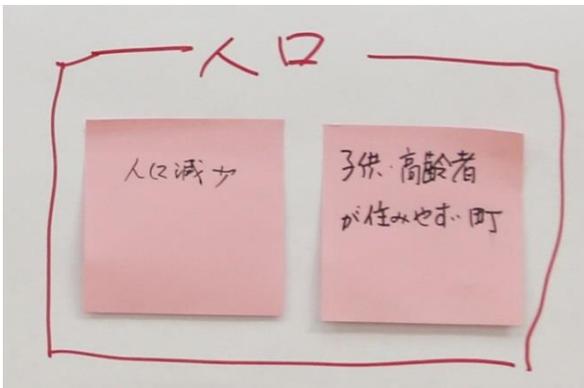


写真14

・人口減少

自分の子どもが結婚・出産をし、またその子どもが結婚・出産をしていく

でも、自分には今の現実、人口減少がなぜ起きているのかがどうしても理解できない。

↓

必ず、子どもっていうのは増えていくはずだと思っていたが、今現在は人口減少になっている。(写真14)

【魅力について】

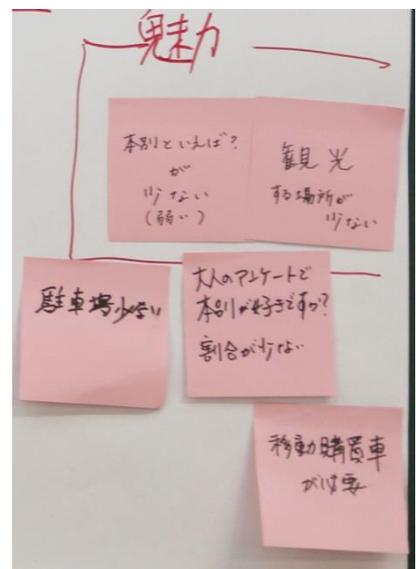
- ・「本別といえは」という観光名所が少ない
- ・駐車場が少ない

公共の駐車場はあるが、町の中・商店街の駐車場が無い。

↓

だからどうしても路上駐車して、買い物するということが起きてしまう。

写真15



・総合計画策定のアンケートに「本別は好きですか？」という質問に対して、好きと答えた大人の割合が低い。

→これは、なぜ？

・以前に、本別町のアンケートの中で、「本別町に住みたいですか？」という質問に対して、80%以上の方が「住みたい」というアンケート結果もあった。

その中で、移動購買車という話が出てきていた。

高齢者の方で、運転が出来なくなっている方が結構いる。

↓

移動購買車をぜひ本別で展開したい。(写真15)

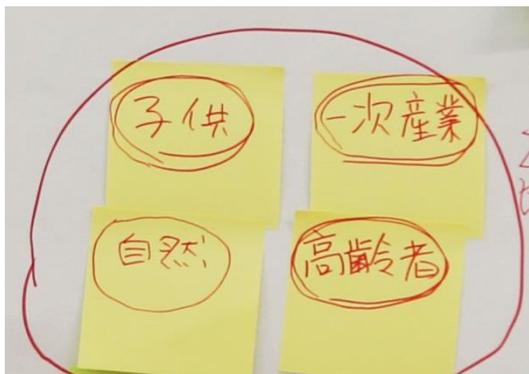
【結論】

解決はしないけれど、自分達も努力する。

『本別大好き』 班の討議結果 (発表者：北谷 和雄)



メンバー
 新津 直子
 北谷 和雄
 風間 進
 田西 昭子



【結論】

やっぱり本別から元気にしていくためには、子ども、一次産業、高齢者、自然を活かしていくしかないだろう (写真16)

写真16

【課題について】

- ・本別はちょっと寂しい
 - ・商店街が衰退している
 - ・飲みに行く場所も無い
 - ・企業が減少している。自営業者は後継者もない
- ↓
- 大変錆びれている状態 (写真17)

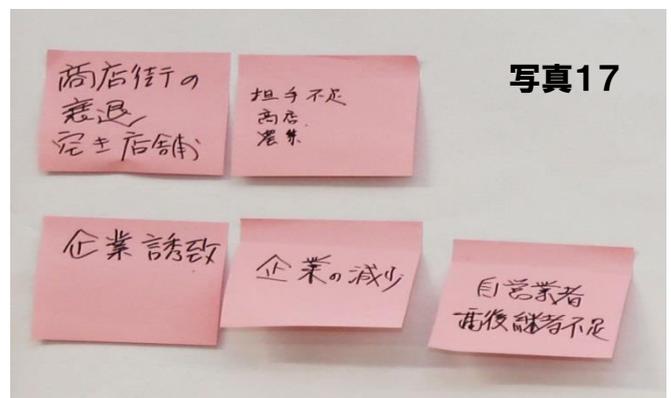


写真17

・若者の就業場所がない

↓

先にも出たが、それが人口減少に繋がっている（写真18・19）

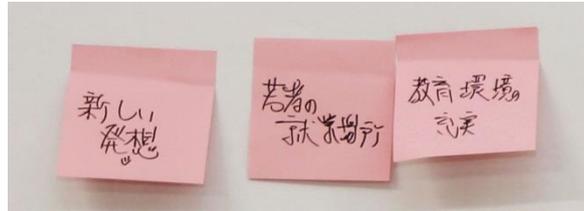
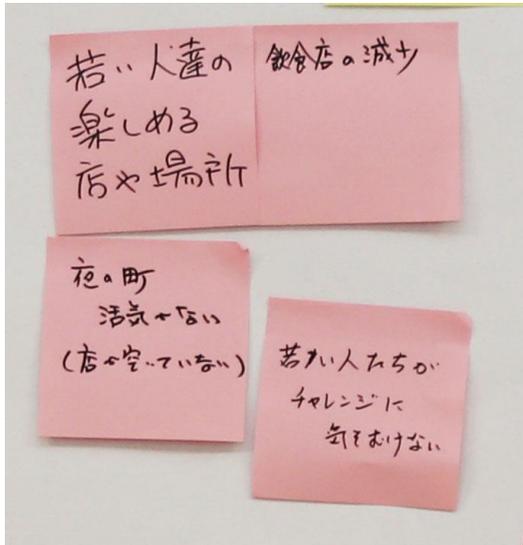


写真18・19



【高齢者について】

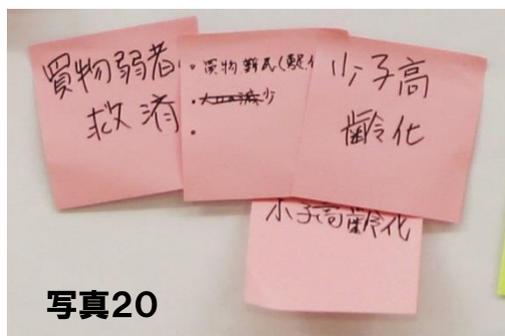


写真20

・本別町は福祉で有名になっているが、やはり買い物が出来なくなるという方がいる
・施設は作るが、店の無い所に施設がある。仙美里・勇足に作ってどうするのかと。それよりも本別の町中や、店の近くにそういう施設を作って、自分で買い物が行けるような対策をした方が良いのではないかという意見も出た（写真20）

【イベントについて】

- ・本別で一番自慢できる部分
- ・春夏秋冬イベントがあって、みんな羨ましがっている。他町村から「本別はイベントが多いね」「楽しいよね」というお話がたくさん出ている
 - これを利用しない手はないと。我々も一生懸命イベントを盛り上げていかなければいけないが、費用も掛かるし、ボランティアもしなければならぬし、みんな疲弊してきている。

特定の人が一生懸命やってくれていても、やっぱりみんなでイベントをやれるように、若い人を育てていかないとダメ。

- ・本別の役場職員は、イベントの時には大変努力して、積極的に応援してくれているが、一般の若い人は、素知らぬ顔というか観に行く程度で、なかなか自ら積極的に参加することは無いみたい

↓

これをもうちょっと工夫してみんなで盛り上げるという体制を作っていかなければいけないと感じている。(写真22)

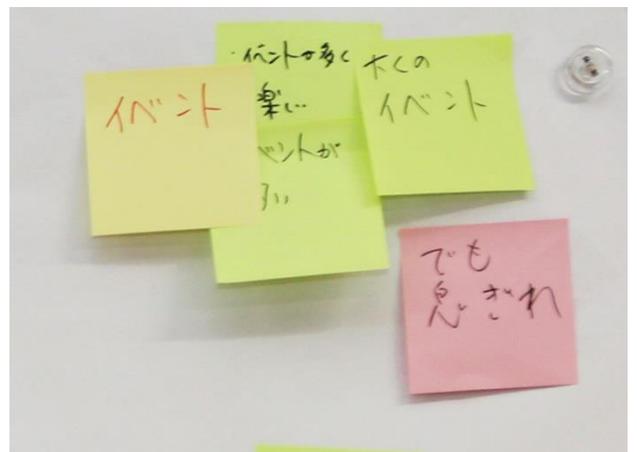


写真22

【自然について】

- ・本別公園、義経の里御所、アスレチック、かぶと池など、立派な施設がたくさんある
→これを活用しない手はない。
- ・講師が例として挙げていた『ちょっと移住』
→空き家を使ったり、御所を使ったり、研修施設を使ったり、いろんな受け入れ場所は工夫すればあるのでは。
→町外に住む方へのPRが足りないのではないか。

(写真23)

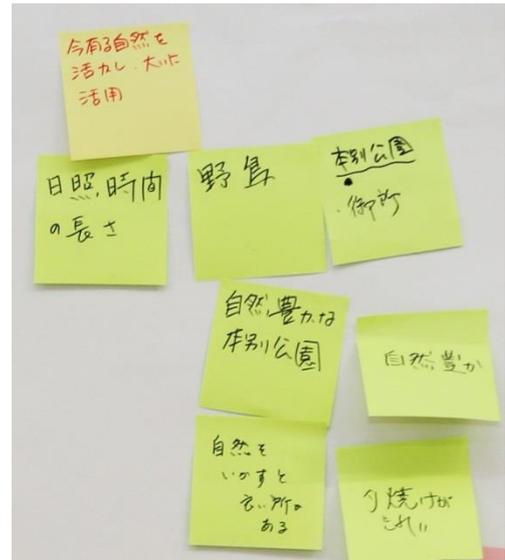


写真23

【子どもについて】

写真24

子供達が
楽しめる
環境整備
も

- ・子どもが楽しめるイベントが少ないのでは
→もうちょっと幼稚園から小学校・中学校くらいまでの子どもたちが楽しめるような施設またはイベントを考えていけば、本別の町民だけではなくて他町村からそのイベントに参加してくれるようになる。または『ちょっと移住』のときの参考になるような、そういう遊びのある町になるのではないか。

子どもを掴めば親もついて来る。

↓

本別に来る人が増えれば町の経済も良くなる。

↓

商工業者も少しは活気が出る。町も活気にあふれるのではないか。

『ALL 本別』 班の討議結果（発表者：村上 慈恩）



メンバー	
橋本	文子
新津	初男
井出	壬午
田西	真由美
村上	慈恩

【課題について】

ベクトル図にして簡単にまとめてみた。『時間がかかる』、『時間がかからなくても出来そう』さらに内容として、『簡単』である、『難しい』という点でまとめてみた。

【『時間がかかってしまうけれど簡単な部分』について】

- ・子育てしやすい町づくり
→砂場だったり遊具の充実、空き家の有効活用。高齢者が集える場所づくり（写真25）

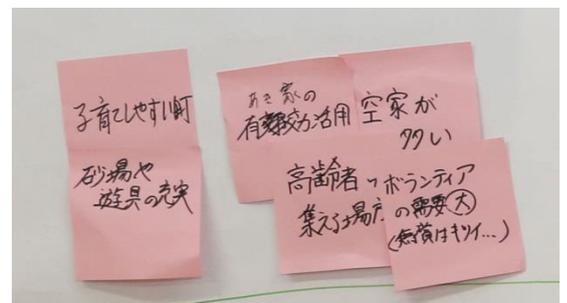


写真25

【『時間がかかってしまって、難易度として難しい部分』について】

・産業

→全般に担い手不足になっている。若者を育てる環境づくりをしていく

・高齢者の買い物を移動販売にする

→買い物を何とか楽にさせてあげること。そして高齢者の方たちの自身の目で見ても買物をしてもらいたい。

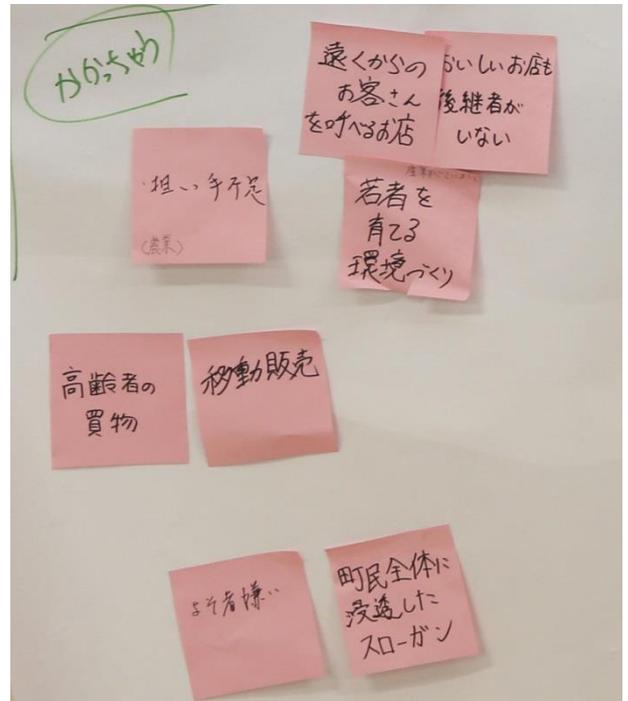
COOP であったり、今実践している企業もあるが、自治体としても時間はかかるが実践してもいいのではないかな。

・町民全体に浸透したスローガン

→難しいが、全体として町民の皆さんに浸透したスローガンがあれば、全体としてまとまってイベントであったり行動を起こせる原動力になる

のではないかなというスローガンを作った方がいい。(写真26)

写真26



【『時間があまりかからなくて難しい部分』について】

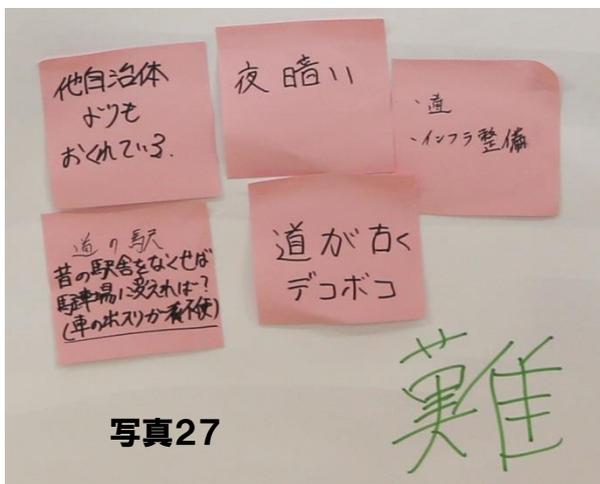


写真27

・道の駅で、昔の駅舎をなくす
→駐車場が広がるのでは

・道が古くてデコボコ

・夜が暗い

→お金の問題になってしまうので、すぐに来るかもしれないが難しい部分。(写真27)

- ・きらめきタウンフェスティバルと花火大会
→若者が、流行りの『インスタ映え』などといわれるようなものを利用していけば、もっともっと本別の良さっていうのは伝わるんじゃないか。
- ・人間性の部分において、人情が厚い、仲間意識が強い
→（例として）人間性でいえば You Tube に人間性を強調出来るような動画を投稿してみる
→現代と融合して本別の良さをアピールしていけたら良い
- ・住民が気取らないところ（写真29）

【結論】

全体的にいえるのは情報を発信する力があれば、もう少し良さを発揮できるんじゃないか。

この発表に対する質問

人情が厚いとか仲間意識が強いとありましたが、図の「よそ者嫌い」とは何か？

村上：発表した他に「よそ者嫌い」という課題があった。本別は、他所から来る人に対してちょっと…というような意見も出たが、これは物理的な問題ではなく、なかなか解決しづらい問題ではあるのかなと思い、議論が進まなかった。



【講師の講評】 講師：大山 慎介氏

【感想】

びっくりするくらい皆さんまとめられていて、すごかった。



講師の大山氏

【次回のワークショップに向けて】

・ものすごくイベントとか自然とかキャンプ場を含めて、施設もあるということ

皆さんは今日初めて他のグループのことをお聞きしたと思うので、これを、どうやって活かしたらもうちょっと上手くできるんだろうとか、具体的なものを少しずつ考えると良いと思われる。

・『働くところが無い』とか『若者が出て行く』こと、『移動販売車』について

→ドローンでやる方法とかもある。例えば、2020年5月1日から全部（買い物が）ドローンになると予告されていれば買い物難民の心配はない。しかし、そろそろそういうものがやってくると思っている、近くなると停止してしまうということもある。

↓

このイノベーションをいつどう変わるだとか、いきなり開始するなど、急に今の状況を変えることは出来ないが、いずれは買い物ができるようになってほしいと思う。

・多くの班が共有していたPRの発信、発信力について

→You Tubeがいいのか何がいいのかは分からないが、これは取り組んでいるということは分かる。

・次回に向けて、マイナスに思われている課題を解決するにはどうしたら良いか？ということを考えてくると良いと思う

・困っていることやこうしたほうが良いんじゃないかとか、出来る・出来ないに関わらずやりたいことを挙げてみるのが大事

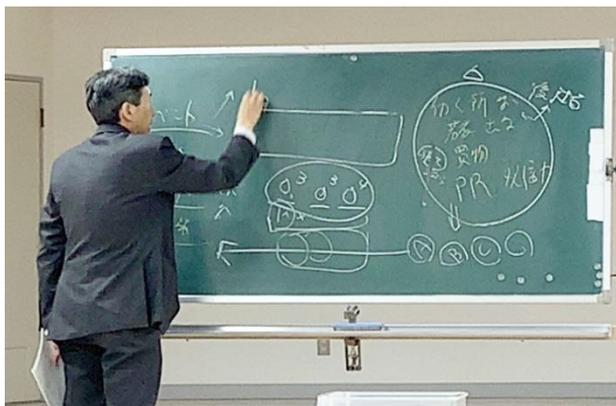
↓

そして、これを伸ばすにはどうしたら良いかを考えていく。

例えば、イベントでいえば、イベントがあるのは良いことだが、成り手不足なので、それを解決するにはどうしたら良いか、ということを考えていく。

プラスの面でいえば、子育て環境は抜群に良いと思う。それをさらに伸ばすにはどうしたら良いか、他の面と結び付けていくにはどうしたら良いかということを考えていく。

例えば、買い物で困っているということであれば、買い物を助ける人がいたら良いのだけでも、人口が少ない町にとっては人を1人雇うのも大変なので、外から雇うのか、町で募集をかけて雇うのか、というように話し合いをしてほしい。



そして、人員が不足しているところを挙げていって、そこを結び付けていき、各部署に1人ずつ配置ということではなくて、1部署0.3人区というように分けて、3部署で1人区になるように雇用していくという考えなども視野に入れつつ話し合いを進めていくこと。

・町の良いところをどんどん出していく

→例えば、本別の1月～12月までの『本別面白カレンダー』みたいなものを作ってみるのもいいかと思われる。

・本別高校の存続に至っても、CS（コミュニティースクール）を作ってみるとか、いろいろなアイデアを出していく

その結果、カレンダーを作って、町に人が集まるようになったら、町民も嬉しいし、他の人も嬉しい。

↓

人が集まることによって、今まで出来なかったことやいろんなことが出来るようになるし、町のPRにも繋がっていくようになると思われる。

